

市長施政方針



土本 昌幸 議員
(公明党)



問 「安全・安心に暮らせる環境の充実」についてお伺いします。防犯カメラの設置状況と計画について答弁を求めます。

答 防犯カメラの設置については、加西警察署の要望等により市が設置するものと、市内の自治会への防犯カメラの設置補助事業の2種類があります。

令和4年度は、加西警察署からの要望により殿原町落合橋交差点に1機、加えて加西市教育委員会からの要望で、通学路危険個所として小野寺医院駐車場、善防・千

歳橋・西高室丸山公園入口交差点に4機、計5機を設置しました。自治会の防犯カメラ設置補助事業では、野条町をはじめ12自治会で設置しました。

令和5年度は警察要望3機、自治会要望12機の設置を見込んでいます。

要望 防犯カメラは抑止力であり、積極的に増設していただきたい。

問 次は「安全性と利便性が確保された都市基盤の整備」についてです。道路整備ですが、市道延長は約500Kmあり、多額の費用が必要です。道路と白線の補修に関する予算についてお聞きします。

答 特に道路の安全施設として白線の役割は重要であり、毎年継続して更新しています。白

線は、主に交通反則金充当事業により実施していますが、予算が不足しています。

安定的に白線の引き直しを行うには、道路修繕事業の中で白線に特化した予算を確保することが不可欠と考えています。令和5年度以降、白線の更新についても予算確保に努めます。

要望 安全性から道路補修より白線のほうが優先するのではないかと。雨や夜間等ではラインが見えにくく、特に高齢ドライバーにとって必要で予算を確保していただきたい。

■その他の質問項目

- ・生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり
- ・地域資源の活用と人の流れの創出

小・中学生の不登校について



高見 博道 議員
(令和新風加西)



問 少子化による児童・生徒の減少にもかかわらず不登校生が増加傾向にあるのは残念に思う。学校や総合教育センターではどのように対応しているのか。

答 学校では欠席が二、三日続くと家庭訪問や保護者と密に連絡を取るなど、良好な関係により相談しやすい環境づくりを目指しています。また、年度替わりには支援等の必要事項を確実に引き継ぎ、情報共有を行っています。

教室に入りにくい児童・生徒には可能な範囲で別室で個別に対応し、長期欠席の場合には定期的に

家庭訪問し、学習用端末を活用したオンライン授業等の学習支援を行っています。

また、悩みなどを聞き取って相談に応じるスクールカウンセラー、福祉の観点から支援して関係機関へつなぐスクールソーシャルワーカーを配置し、学校と情報共有しながら3者が連携して心理、福祉両面からの支援体制を整えています。総合教育センターでは、自分のペースで通所できるふれあいホームの開設、臨床心理士による教育相談、発達支援アドバイザーによる発達検査や発達に関する教育相談、ソーシャルスキルトレーニングなどを行っています。

問 保護者に対する支援や対応は。

答 欠席が続く児童・生徒の保護者は不登校の状況に悩ん

だり、自分を責めたり、子供の対応に迷う様子が多く見受けられます。学校では家庭訪問や電話連絡を定期的に行って児童・生徒の家庭での様子を聞き、つながりが切れないよう努めています。

また、保護者からの要望や困っていると感じることを聞き取って不登校対策委員会等で支援、対応について検討しています。あわせて、スクールカウンセラーや総合教育センターの臨床心理士による教育相談を行い、心の支援に当たっています。スクールソーシャルワーカーも家庭訪問や面談等を行って保護者の悩みを聞き、家庭の課題解決のため市の地域福祉課や関係機関の支援につなげています。

要望 加西市の未来を支える子供たちのことですので、しっかりと対応していただきたい。